

共生社会ホストタウンとは

ホストタウンには、特定の目的を掲げて活動する「復興ありがとうホストタウン」「共生社会ホストタウン」「ただいま・おかえりホストタウン」などがあります。

本町は、障がいがある人、ない人が共に生きやすく「人にやさしい・暮らしやすいまちづくり」を推進するため、共生社会の実現を目指す「共生社会ホストタウン」に県内で2番目に登録されました。

「共生社会ホストタウン」とは、パラリンピック競技大会でのパラリンピアンを受け入れを契機に、特色のある総合的なユニバーサルデザインの町づくりや心のバリアフリーの取り組みを推進し、大会以降も共生社会の実現を目指す自治体です。

始まる共生社会ホストタウンの取り組み

町では、共生社会ホストタウン事業の取り組みの一つとして、東京オリンピック・パラリンピックに出場するガーナの選手に向けた応援メッセージ動画の撮影や「花アート〜ホストタウン猪苗代〜」の制作を行って

きました。

「応援メッセージ動画」の撮影には、町内の小中学校や猪苗代支援学校、ぼんだい荘、こどもひろばブリモの皆さんが参加。各学校や団体がそれぞれ工夫を凝らして応援メッセージを収録しました。また応援メッセージのほか、翁島小学校や猪苗代支援学校などの5校によるガーナ国歌の斉唱も収録されています。このうち猪苗代支援学校では、国家斉唱に合わせて楽器を演奏したほか、ガーナ国旗の赤、黄、緑の3色の布を使った演技が披露されました。

完成した応援メッセージ動画は、在日ガーナ大使館を通じてガーナに届けられます。また動画の一部は、国のホストタウン専用サイト「世界はもっとひとつになれる」内で配信される予定です。

「花アート〜ホストタウン猪苗代〜」は、本町出身の写真家野口勝宏さんが撮影した「福島の花」のシルを使い、美しい磐梯山と猪苗代湖の風景を描き出した作品です。NPO法人猪苗代研究所の協力の下、町内の小中学校、猪苗代高校など15団体の皆さんが心を通わせて作り上げました。完成した作品は、聖火リレー会場や猪苗代駅などに展示される予定です。



吾妻小学校〜応援メッセージ動画撮影〜

特集 つながる ガーナ共和国×猪苗代町



ガーナのホストタウンに

本町は、東京2020オリンピック・パラリンピックの開催に当たり、平成28年1月に以前から交流のあったガーナ共和国（以下「ガーナ」）のホストタウンに登録されました。

「ホストタウン」とは、日本の自治体と2021年に延期となった東京オリンピック・パラリンピックに参加する国や地域の住民などが、スポーツ・文化・経済などの多様な分野で交流することを通じて、地域の活性化などに生かし、オリンピック・パラリンピックの枠を超えた末永い交流を実現することを目的とした取り組みです。

誰もがオリンピック・パラリンピックに関わることができ、誰もが主役になることができるのがホストタウンの醍醐味です。私たちが住んでいる地域と、東京オリンピック・パラリンピックに参加する選手の国や地域が、ホストタウンを通じてつながり、交流を深めることで大会を超えたつながりを未来へ向けて築いていく。これがホストタウンの目指す姿です。



地域おこし協力隊 小林 一貴さん



友好を誓い、握手を交わすアクフォ・アド大統領（左）と前後町長（2018年12月＝町役場）



レベッカ・アクフォ・アド大統領夫人から野口英世記念館に贈られた玉座（2020年1月）

皆さん「マーハー」（※こんにちは）。「ガーナおじさん」と、地域おこし協力隊の小林です。さて、今年はいよいよ東京オリンピック・パラリンピックが開催される年です。自国で開催されるのもすごいことですがその開催が延期されたというのも初めてのことで、皆さんの記憶に残るオリンピックになると思います。

現在、各小中学校の皆さんがガーナの選手に向けて作った応援メッセージをガーナに届ける準備をしています。東京オリンピック・パラリンピックに出場する選手やこれから出場を目指す皆さんに猪苗代町から大きなパワーを送りたいと思っています。大会の開催を通じて、ガーナのオリンピック・パラリンピアンとの交流も検討しているところです。

スポーツは健康の維持増進だけでなく、私たちに勇気や感動を与えてくれます。さまざまなスポーツ大会が感染対策をしながら徐々に再開されています。皆さんで東京オリンピック・パラリンピックを盛り上げ、日本、そしてガーナの選手たちを応援しましょう。

フランク・オチェレ駐日ガーナ共和国特命全権大使から 猪苗代町の皆さんへのメッセージ

新年明けましておめでとうございます。猪苗代町は、ガーナ共和国にとってかけがえのない存在です。野口英世博士が黄熱病研究のため、英領ゴールド・コースト（現・ガーナ）に到着した1927年以來の深い絆ですが、前後公町長をはじめとする猪苗代町の皆さんの温かいご支援・ご恩顧により、日本とガーナの友好関係が年々強化されているのが目に見えます。私はそれを誇りに思います。2020年は、世界的にも前例のないパンデミックの危機に見舞われました。延期となった東京オリンピック・パラリンピックに向けて、予想がつきにくいにも関わらず労を惜しまず在日ガーナ大使館にご連絡くださり、可能な限り東京まで足を運んでくださる皆さんの努力は心打つものがあります。多くが参加する日本とガーナの子どもテレビ会議を含む、さまざまな文化交流事業を計画してくださっていることに深く御礼申し上げます。中でも、ほとんど馴染みのないガーナ料理を猪苗代町の皆さんに知ってもらおうと私の料理人を招待してくださり料理教室を開くというイニシアティブがありました。



His Excellency Mr. Frank OKYERE

また、ガーナ輩出のアスリートに声援を送るため、ガーナの国歌を英語の歌詞のまま猪苗代町の子どもたちに教えるという音楽授業の企画には、特に感銘を受けました。ご協力いただいている5校の保護者、先生方にも感謝の意を表します。幼い子どもたち、障がいのある子どもたちも参加できるよう企画を調整しつつ、さまざまな観点から展開してくださるその思いは、遠いガーナにもしっかり届いております。猪苗代町のまたとないグローバルな教育精神の影響力は、今回のオリンピック・パラリンピックを遥かに超えるものと信じております。昨年1月18日には、レベッカ・アクフォ・アド・ガーナ共和国大統領夫人から野口英世記念館に伝統織物ケンテが施された玉座が贈られました。その玉座が象徴するように、猪苗代町とガーナ共和国のさらなる連帯性が次世代をも勇気づけることと願ってやみません。皆さんのご健勝を心よりお祈り申し上げます。



Interview

吾妻中学校3年
齋藤 瑳和 さん

「花アート制作」や「応援メッセージ動画撮影」を通じて、ガーナとつながりを持つことができ、うれしいです。ガーナの選手を心から応援しています。もし、猪苗代町にガーナの人たちが来ることがあったら、英語で会話をしたいです。

▼東京五輪・共生社会ホストタウンに関する問い合わせ先
生涯学習課 社会体育係
☎(72) 0180

今年、東京オリンピックの聖火が本町を通過する予定です。この貴重な機会を通して、東京オリンピック・パラリンピックやホストタウンへの関心を高め、皆さんも一緒に、大会へ出場するガーナの選手を応援しましょう。



アクラ滞在時の野口博士(左) 写真提供=野口英世記念会

本町とガーナとのつながり。そのきっかけとなったのは、偉大な医学者、野口英世博士の功績によるものです。1927(昭和2)年、野口博士は当時流行していた黄熱病の研究のため現在のガーナの首都アクラに渡り、病原体の解明に明け暮れます。しかし翌年、博士自身も黄熱病にかかり亡くなりました。人類のため、命を懸けて危険な研究に打ち込む博士の熱意がガーナの地に強い絆を残しました。2004(平成16)年、野口博士の肖像が描かれた千円札が

野口英世博士が残した絆



博士の生家を訪れるローリングス元大統領(右)

発行されたことを契機に、町内ではさまざまな取り組みが始まりました。町国際交流協会では、博士の偉業を顕彰し、博士の終焉の地であるガーナを知るために在日ガーナ大使館を訪問。初等教育における地域格差などの現状を知り、「ガーナ学校建設募金」を開始し、プアルグ村に小学校を建設する資金の一部として寄付を行いました。2007(平成19)年にはガーナの高校生の活動を支援している「ガーナよさこい支援会」からの提案を受け、ガーナの高校生の研修旅行の受け入れが始まります。町国際交流協会が中心となり、ガーナの高校生のホームステイをこれまでに4回受け入れたほか、猪苗代高校の生徒との交流を行うなど、互いに交流を深めてきました。

深まる交流

これまでに、本町にはガーナ大統領が3回来町しています。1993(平成5)年にJ・Jローリングス当時大統領夫妻、2002(平成14)年にJ・Aクフォー当時大統領夫妻が、そして2018(平成30)年にはアクフォ・アド大統領が来町。いずれも野口英世記念館などを訪れ、野口博士の功績に触れています。

2014(平成26)年3月には、町の交流事業実行委員会のメンバーがガーナのアクラを訪問。国立コレブ病院を訪れ、野口博士の研究室などを見学。同病院に野口博士の像を贈りました。

同年、町ではガーナ出身のセイラム・フォーチュナイト・アドウクボさんを外国語指導助手として迎えます。「セイラム先生」と呼ばれ、親しまれたセイラムさんは、3年間、町内の中学校などで英語指導に携わる傍ら、和太鼓団体に所属し、町民とも心を通わせていました。東京オリンピック・パラリンピックの「ホストタウン」を通じて、ガーナと本町の絆がますます深まっていくことに期待が高まります。



1_2018年、事前キャンプに関する協定を締結



2_2014年の交流 3_2017年、ガーナの高校生と猪苗代高校の生徒が交流を深めた 4_2017年、ホストファミリーとしてガーナの皆さんを出迎える佐藤弘一さん(左から2人目・高森)

